

橋 詰 良 一 著

「家なき幼稚園の主張と実際」

より (六)



第十 各地への伝播

池田の呉服の森に開かれた家なき幼稚園がともかくも一年の経過をとるうちに、春から夏、秋から冬、それからお正月も野の中で経過して、大正十二年の春へはいました。その当時の私どもの心の勇躍はとも想像することのできないほど血の氣に満ちたものでした。その三月に有志の人たちが集まってどうしても絵馬堂のような不便なものばかりにたよらずに、小さくても独立した専有の家を造りたいといひ出されました。

「家」早くも大人は家なしにいられないことを露骨に明示してきただものであると私は微笑を禁じ得なかつたのでありますが、池田神社の絵馬堂が危ないまでにかたむいているのを見ますと、またそのままに捨てて置かれぬ心持ちにせかされてついに有

志の協力によって今の小さな建物が森の陰にできあがりました。

それでも園舎などとはいわないで「幼児集会所」という名にして、子どもが集まるためのもの、雨の日や特別な悪天候のための用を満たす家で決してこの家が幼稚園ではないということを人々に意識させることをつとめてまいりました。

がこうして建物もでき、一年の経過もつとてまいりますと、さすがに進歩した人たちの集まっている新市街地の風評は意外に喜ばれてきたものと見えます、ほど近い土地の有志者が、おいおいに訪ねてきて、そこにもここにもこの自然の子どもの園の建設を熱望された結果、次のようなおいおいとできることになりました。

宝塚家なき幼稚園 (大正十三年二月)

箕面家なき幼稚園 (大正十三年六月)

十三家なき幼稚園 (大正十三年五月)

雲雀丘家なき幼稚園 (大正十三年十二月)

千里山家なき幼稚園 (大正十四年二月)

ほんとに大正の年代は、私にとっての大切な子どもの国の建設時代だともいえる時でおそらく一生を通じての最も愉快な意義ある年として記念すべきであると思っています。

各地の園の特色

このようにしてできていく六つの幼稚園にそれぞれ風致上の特色と環境としての特徴とがあります。それをそれぞれに發揮させ、互いに相反映させることを私は心の奥に楽しみました。

お宮の幼稚園 (池田)

川の幼稚園 (宝塚)

山の幼稚園 (箕面、千里山)

新開地の幼稚園 (十三)

富区の幼稚園 (雲雀丘)

神社を中心とした池田の森にはまことに神妙な心持ちを培うような静けさが深い木陰につつまれています。

清い武庫川の流れが愛の松原と名づくる古松の丘を巡って豊かに流れている宝塚には他にくらぶることのできない涼しさと明る

さがあります。

箕面の幼稚園にはその裏からすぐに何里も奥へ続いているような松山を園のものとして、幼児に独占させているような自然のめぐまれがあります。

雲雀丘には香港ビークに見るような住宅美をもった丘陵を後ろに負い前に太古民族の遺跡だという加茂の丘を見おろしているような一望の広さがあります。

千里山にはまた千里山特有の丘陵美をもって満たされています。さらに、十三には大阪市の北によった大都市の末梢部という地形があつてそこの中の幼児の群を扶養する特有の色彩があります。

この各々の園の先生たちが、時々入れ変わって各地に助勤する案をたてたり、また各地の若き女性たちが時々集合して意見を交換したり懇親を結んだりするような会合を催したり各地の長短を親類同志、姉妹同志の間で研究しあう自由をもっていることも、また私は喜んでまいりました。

以上各地で開園のたびに、また新学期のたびに、配布する簡単なすり物はいずれも同じ形式で左のようなものです。

大自然のなかで

幼児の身と心とを

伸びるだけ伸ばそうとするのが我園の主張です。

□子どもを無邪気に □子どもを神妙に □子どもを快活に

□子どもを丈夫に

これが我園の希望です。

□若い優しい先生がお友だちになって

□子どもの真純な相互生活を営ませたい

これが我園の方針です。

定員が満たないうちにお望みの方は御申込み下さい。三歳以上の御子たちならよろしい。

入園料 金三円 月謝 金三円

池田家 なき 幼稚園

事務所 (室町七番町橋詰方) 電話池田二六六番

幼児集合所 (呉服神社表門外)

園長 橋詰 良一

保母 西川 治子

同 岡村 栄子

浅野 静子

葛野 宣子

川田富久子

(以上就任順)

囑託 サーレアーレキサンダー

園医 谷軍 治郎

委員 木村源三郎

同 北上 惣七

新銀巳之助

竹林 虎一

山口伊之助

(大正十四年のものです)

第十一 保育の内容

さて、私の子どもの国「家なき幼稚園」の幼児生活がどんな模様にして営まれておりますか、すなわち私の園の保育内容がはたしてどんなものであるか、それが一番人々の聞いてみたいと思わるる主要点であろうと思われませんが、実際はそれがすこぶる簡易に、なだらかに、手数のいらぬようにして、自然に営まれていくことが聞いていただきたい重要な点でもあります。

保育の時間

保育の時間は、時季によって幾度でも変更しますが、大体冬は

午前十時から午後二時頃まで、夏は午前九時から午後一時頃まで、そして春秋の野の幼稚園ゾーンには午前九時から時によると午後の三時頃までも遊び回ることがあります。

もっともこの保育時間は普通の幼稚園に準拠していくらかを伸縮したにすぎませんが、一口に言えば、もっと長くしても短くしても子ども状態に応じて行けば、一向に差支えないものだと思われれます。またわが園では少しもそんなことに拘泥してはいません。

時間はどう移ったか

一日のうちの遊戯や作業やその他のことをどんな時間に配当しているか、などと問われることがたびたびありますが時間割などもとより作っていないことは、もちろん子ども興味の連続しているかぎりはなるべくあることを継続させる代りに興味がなくなればいつでも他へ転換するにちゅうちょしないのですからどんなものがどれ位続くやら、またそれが日によってどう変わるやら予測することはできません。

けれども実際の経過を日記に書きとめるだけは鄭重にしてあります。後になってこれを見ると、いくらかまとまった課程表のようなものがながめられます。

課目の予定は

「明日の心つもり」という簡単な名目で、左のような予定が、どの園の娘たちの手でもつくられます。この園の特色は晴の日と雨の日との心つもりをいつでももしていなければならぬことでそれだけを書きつけておきます。

月 日	曜日
(晴)	(雨)
回遊(裏のお山 から滝へ)	蓄音機
お弁当	自由画
おはなし	

こんな心づもりのように(また臨時に変更して)させて行きませんが、それも全体の子どもが一樣に何時から何時までといったというのではなく、ある子どもは甲の先生の介錯しやくである時間まで続いているが、ある子どもは乙の先生の介錯しやくでとうに他の仕事に転換しているというありさまですから、記録にも大方この辺に一致するであろうと思わるる時間を標準として記入してあるにすぎないものも多いのです。

したがって後日にその記録を見ても確実な時間を推想する資料となるものもありますけれども多くは概要の時間を想見するにた

池田家なき幼稚園

粘 土 細 工	手 技	英語 (ミ ス ア レ キ サ ン ダ ー)	お は な し	回 遊	自 由 遊	お 遊 戯 お 唱 歌	椅 子 取	昭和二年七月分	
								晴	曇
					0.40	1.00	時分 1.00	晴	1
			廻りま 0.50	1.30				晴	2
0.30	0.15	0.40			1.00			晴	3
0.30					1.00			晴	5
					1.00	0.30		曇	6
					0.30	0.20		曇	7
	0.40				0.30	0.20		晴	8
	0.20	0.20			1.00			晴	9
0.30					0.40		0.15	晴	10
				0.30		1.00		曇	12
					0.30			晴	13
	0.30				1.00	0.40		晴	14
			0.40			0.40		晴	15
1.00					0.40			晴	16
	0.30				0.40	1.00		晴	17
			0.20		0.20	1.00		曇	19
	0.30	0.20			1.00			晴	22
				1.00	0.20			曇	23
	0.15		0.20		1.00	0.20		雨	24
1.00						0.20	0.30	曇	26
			0.30	1.00	0.40			晴	27
					1.00			晴	28
					1.00			曇	29
					0.40	0.30		晴	31
0.42	0.26	0.27	0.32	0.00	0.44	0.40	0.35	平	均

りるまでのものです。
 ただし、この全体の生活がどんな形に営まれているかを大観する鳥瞰図としては相応に興味のある資料だとも思いますからここに違った三園の二月、七月、十月の表を並べてみました。

うに地形も状況も違ってきますのでこの生活鳥瞰図をくらべて下さいましたら、おのずから各様の特色が見えていただけると思われます。また各園の保母の好むところにしたがって多少の趣を異にする自由をもっていることも見ていただけると思います。

もっともその鳥瞰図を選び出した時季はわざと違う年にしていくらくかこの園の全体の推移を縦に眺めてもらうことのできるようにとも考えたのであります。

各園各様に
 この三つは、お宮の幼稚園、山の幼稚園、川の幼稚園というよ

箕面家なき幼稚園

回 遊	自 由 遊 び	唱 歌 遊 戯	積 木	大正十四年七月分	
				時分 0.30	雨
	0.20	0.50		雨	1
0.50		0.30		晴	2
	0.25	0.15		晴	3
	0.45	0.20		晴	4
	0.40	0.20		雨	6
1.15		0.30	0.50	晴	8
	0.30	0.30		曇	9
	1.10			晴	10
2.15				晴	11
1.15		1.00	1.15	晴	13
	0.30	0.30		曇	14
		0.40		晴	15
	1.00	0.55		晴	16
1.25	0.20	0.15		晴	17
	0.30	0.20		晴	18
1.10	0.30	0.25		晴	20
1.55	0.20	0.15		晴	21
	0.40	0.20		晴	22
	0.55	0.20		晴	23
	0.15	0.15		晴	24
1.35	0.30	0.15		晴	25
		1.00		晴	27
	0.30	1.00	1.00	晴	28
2.30	1.00			晴	29
2.15	1.20	0.25		晴	31
1.38	3.35	0.31	0.54	平均	

合 計	バスケットボール	銀貨廻し	動物園ごっこ	シャボン玉	蓄音機	ボート遊	スプリンレース	スキップ
2.40								
2.20								
2.25								
1.55								0.25
2.10							0.40	
2.00					0.30	0.40		
1.45				0.15				
2.10								0.30
2.15			0.40	0.10				
2.00					0.30			
2.00	0.30	0.40				0.20		
2.10								
2.20		0.40				0.20		
2.10			0.30					
2.10								
1.55				5.15				
1.50								
1.45					0.10	0.15		
1.55							0.35	
1.50								
2.10								
1.00								
2.15		0.40						
1.55	0.15							0.30
	0.23	0.40	0.53	0.31	0.32	0.24	0.38	0.28

宝塚家なき幼稚園

お弁当自由遊戯	おひるね	水泳	自由画	自由遊戯	お遊戯	昭和二年七月分	
						時分	
0.50				1.10	雨		1
0.50			0.30	1.20	晴		2
1.00				1.20	晴		4
1.00				1.00	0.40	雨	5
1.00			0.40	1.00		晴	6
1.00				1.20	0.30	雨	7
0.50				0.30		曇	8
0.40				0.50	0.25	晴	9
			0.30	1.10		晴	11
				1.00		晴	12
				1.25	0.25	晴	13
				1.10		晴	14
	0.30			0.30		晴	15
			0.20	1.00		晴	16
	0.35			1.00		晴	18
		0.40			0.30	晴	19
				0.40	0.35	晴	20
		0.30		1.00		晴	22
		0.30		0.30		晴	23
			0.30	0.40	0.20	晴	24
		0.30		A. 30 B. 30	0.20	晴	26
		0.50				晴	27
		0.45	0.20		0.45	晴	28
				1.00		晴	29
		0.50		0.30		晴	30
0.45	0.33	0.84	0.28	0.55	0.30	平均	

合計	山上リ	水鉄砲	ススベリットコ	ハンモック	製作画キ方	童話
1.40						
2.30				0.55		0.15
2.35		1.30			0.25	
2.25			1.00		0.20	
2.00			0.40			0.20
3.45			1.10			
2.20	0.50					0.30
1.30						0.20
2.15						
2.30						
1.00						
2.30						
2.20				1.50	0.25	
3.45						0.15
1.50				1.30		
3.20				1.00		0.15
4.10				1.00	0.40	
1.00				1.00		
2.25	1.10					
1.55			0.55			0.30
3.10					0.25	0.25
2.30						
2.30				1.30		
3.30						
0.40				0.50	0.50	
	1.00	1.30	0.56	1.12	0.30	0.21

注 紙面の都合により二月・十月のものははぶきました。
 つぎに、池田家なき幼稚園の一年間の保育鳥瞰図（大正十二年）が一月から十二月までこまかく掲載されて
 います。これもはぶきますが、これによりますと回遊の時間の多いことがよくわかります。

合 計	メン タル テス ト	は な し 方	積 木	お う た	童 話	手 技	い 競 す 争 と 遊 り 戯	回 遊
3.10						0.40	0.30	
2.50					1.10			
2.50					0.30			
3.10							0.30	
3.10				0.30				
3.15							0.25	
3.00			1.0				0.30	
2.20				0.25				
2.20		0.40						
2.30					0.25		0.40	
2.20	0.25					0.30		
2.10				0.30			0.30	
2.30			0.30					
2.10								0.50
1.50							0.30	
1.54		0.20						
1.54						0.30		
2.00							0.30	
1.50				0.50				
2.10				0.40				
1.50								
1.50			1.00					
1.50								
1.30				0.10		0.20		
1.50							0.30	
	0.25	0.30	1.13	0.30	0.22	0.30	0.31	0.50

以上は大正十二年という家なき幼稚園の最もなまなましい時代です。

先生たちも闇のなかを手さぐりで行くような心持ちであったと思いますが、それだけ純真で自由で、時間の推移にも、種目の配置にも自然さがあるとおもいます。

ただし毎日この順序で行われたものではなく、朝くるなり回遊になるかとおもうと、回遊の途中か、帰ったものもあります。

ただこの日には何をどれくらいしたかとする参考ぐらゐのものです。

時間も日記から書きとってもらった(若い先生に)のですが、決してこんなにキッチリしていません。おおよそのところを書き止めたことは前にもいった通りです。

ほんとに子どもの国を鳥瞰するだけの資料ではありますが、漠然とした中にも何物かを映出するに足りないでしょうか。

(この項つづく)

幼児の教育 第七十三巻 第八号

八月号 © 定価一七〇円

昭和四十九年七月二十五日印刷

昭和四十九年八月 一 日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼
発行者 津 守 真

111 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレーベル館にお願いいたします